

表中(六)欄及(七)欄ニ示シタル一週中ノ全收入ト倫敦ノ別居手當トニ對スル數字ハ先ツ比較シ得ラルヘキモノナリ、是ニ依リテ知ラル、カ如ク兵士ノ寄食者九、〇〇〇、〇〇〇其ノ大多數ハ子女ナルカ之ニ對シテ附與セラレタル別居手當ハ以テ彼等ノ生計ヲ維持スルニ足ラス、此ノ如キハ現時政府ノ一大問題トスル兒童ノ健康ト活力ヲ扶助スル能ハサルナリ

食事ヲ支給セラル、兒童ノ兩親ノ事情——一九一六年ノ末、未タ別居手當及ウイルステン教育官ノ學童ニ對スル食事支給ノ新標準カ施行セラレサル以前、ウイルステンニ於テ食事ノ支給ヲ受ケタル兒童ノ兩親ノ職業ハ次ノ如シ

| | |
|--------------|----|
| 兩親ノ事情 | 割合 |
| 寡婦 | 三〇 |
| 戰死者未亡人、兵士 | 二五 |
| 勞働者 | 一九 |
| 父カ公共保護所ニアルモノ | 八 |
| 母ニ去ラレタルモノ | 八 |
| 父カ幽閉中ノモノ | 四 |
| 父カ病身或ハ不具ナルモノ | 三 |

兩親共死亡

父カ戰場ニテ捕虜トナレルモノ
總テ上記ノ場合ノモノハ非常貧困ナリ

一 二

食事支給ノ結果

醫師及看護婦ノ手不足ノ爲メ戰爭中ウイルステンニ於テハ學童ニ支給セラレタル食事ノ影響ニ關シ記録ヲ作ルコト能ハサリシカ教師其他一般當事者ノ證言ニヨレハ兒童ノ健康ト營養ハ漸次改善セラレ兒童ハ益々元氣旺盛ニシテ授ケラル教育ニ耐抗シ得ルニ至レリト

| | | | |
|--------|--|-----------------|----------------|
| 家族數 | 一九一六年十二月六日採用ノ「ウイルステン」教育官ノ學童ニ對スル食事支給ノ標準 | 一九一七年三月一日ニ於ケル標準 | 一週中倫敦ノ別居手當給料割當 |
| | (一) | (二) | (三) |
| 二 | 二二、六 | 二六、六 | 二二、〇 |
| 三 | 二七、〇 | 二八、〇 | 二八、〇 |
| 四 | 三二、〇 | 三一、六 | 三一、六 |
| 五 | 三六、〇 | 三三、〇 | 三三、〇 |
| 六 | 三八、六 | 四一、〇 | 三四、六 |
| | | 四四、六 | 三七、六 |
| | | 五八、七 | |
| 一週中全收入 | 一週一家全支出 家賃、保險料、仕事場往復賃金、兒童手當 | 一週中一家純收入 | 一週中一家純收入 |
| 二 | 六、六 | 八、〇 | 一〇、〇 |
| 三 | 七、六 | 八、〇 | 八、〇 |
| 四 | 八、〇 | 七、六 | 七、六 |
| 五 | 八、六 | 六、六 | 六、六 |
| 六 | 八、六 | 六、〇 | 六、〇 |
| | | 五、〇 | |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|--|--|--|
| 一 | 〇 | 九 | 八 | 七 | | | |
| 六 | 五 | 四 | 四 | | | | |
| 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | | | | |
| 一 | 一 | 九 | 九 | | | | |
| 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | | | | |
| 五 | 五 | 五 | 五 | | | | |
| 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | | | | |
| 六 | 六 | 六 | 六 | | | | |
| 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | | | | |
| 七 | 六 | 五 | 五 | | | | |
| 〇 | 四 | 七 | 一 | | | | |
| 〇 | 〇 | 〇 | 〇 | | | | |
| 四 | 四 | 四 | 四 | | | | |
| 九 | 六 | 三 | 〇 | | | | |
| 六 | 六 | 六 | 六 | | | | |

五八八

○肺結核治療ト氣候トノ關係

北米合衆國公衆衛生局醫官 エフ、シー、スミス述

肺結核治療ト氣候トノ關係ニ就テ醫師ノ云フ所區々ニシテ一定スル所アラス、因リテ肺結核患者ハ何レニ從フヘキヤ五里霧中ニ迷ハサルヲ得ス、今醫師ノ所說ノ區々ナルコトニ就テ述フル所アラントス、古代ニアリテハ或ル箇所ノ氣候ハ肺結核患者ニ取リテ幾千カノ効能アリトノ說廣ク行ハレタリ、クレベス氏曾テ曰ク或ル時若クハ他ノ時ニ於テ或ル箇所ノ氣候カ肺結核患者ニ適スルコトアリ、即チ斯ル箇所ノ氣候カ肺結核患者ノ保護上若クハ治療上ニ著シキ効果ヲ與フルモノナリト、此等ノ說ハ皆ナ是レ氣候ノ肺結核ニ影響アルヲ主張スルモノナリ、然ルニ他ノ者ノ說ク所ニ據レハ肺結核ハ決シテ氣候杯ノ關係スルモノニアラス、如何ナル氣候ニテモ如何ナル場所ニテモ決シテ影響アラサルナリト云フ

右ノ如ク或ル氣候ノ肺結核ニ關係アリト云ヒ或ハ否ラスト云ヒテ一定スル所アラサルヨリ終ニ肺結核ノ『免疫地區』ヲ搜索スルコト、ナレリ、所謂此『免疫地區』ト云ヘルハ肺結核患者ノ極メテ少ナキカ若ハ皆無ナル箇所ノコトニシテ、若シ斯ル箇所ノアリトセハ肺結核患者ノ治療上最モ適當ナルモノト云ハサルヘカラス、畢竟スルニ是レ氣候ノ肺結核ニ關係アルコトヲ確カメンカ爲メニ出テタルニ外ナラス、然レトモ斯ル箇所ハ如何ニ搜索スルモ決シテ見當ラサルナリ、是レ他ナシ凡ソ晩近ノ文明ノ空氣ノ入り込メル箇所ハ結

核病モ亦タ從ツテ侵入スヘケレハナリ、好シ從來ハ斯ル病害之レナシトスルモ苟クモ文明ノ風潮流レ込ミタランニハ久シク此病害ヲ免カル、コト能ハサルナリ、僻遠ノ地ト雖モ一タヒ此病患ノ侵入シタランニハ速カニ蔓延セスンハアラス、好シ又人口少ナキ地方ニテモ苟クモ市邑ノ成立シテ商業ノ行ハレタランニハ結核病ノ伴ヒ來ラサルハナシ、ラザム氏ノ説ニ曰ク高キアルプス山上ノ番兵中ニモ結核病ニ罹レルモノ多カリシコトアリシト、近傍ノ亞米利加印度人中結核病ニ罹リテ斃ル、モノ、數ハ空氣乾燥セル南西部其他好氣候ノ地方ニ居住セル印度人ニ比スレハ稍ヤ多キモノ、如シ、此外海邊ノ空氣、森林中ノ「オゾーン」若ハ山嶽中ノ稀薄ナル空氣等皆是レ結核病治療上何等ノ効能ヲモ有セサルナリ、此ニ於テカ醫師ハ概シテ事實上左ノ説ニ同意一致セリ、曰ク或ル格段ナル氣候カ結核病治療上ニ何等ノ影響ヲモ及ホスモノニアラサルナリ

然レトモ或ル氣候ニ際シテ結核患者ノ外氣中ニ棲息スルハ屋内等ヨリモ一層爽快ニ感スルハ今更論スルマテモ之ナキナリ、休止スル場合ト何等カノ作業ニ從事スル場合トヲ問ハス、外氣中ニ棲息スルコトハ結核病治療法中最モ重要ナルモノ、一タラスンハアラス、但シ結核患者ノ外氣中ニ棲息スルニ就テハ氣候空氣ノ模様等其宜シキヲ得タル箇所ヲ撰擇セサルヘカラス

今マ左ニ掲クルモノハ諸醫師ノ所説ニ係ルモノナリ
バルドゥ井ン氏ノ説(サラナツク、レーキノ人)

氣候ノ變化ト云ヘル事ハ肺結核患者ニ取リテ往々大切ナルコトナリト雖モ何レノ場合ト雖モ盡ク皆然リト云フヲ得ス、蓋シ氣候ノ變化ト云ヘルハ轉地療養ノ意ニシテ、轉地療養ヲ爲サンニハ患者ノ貧富程度合及其身邊周圍ノ事情ヲ顧ミサルヘカラス、若シ夫レ患者ノ經濟上及周圍ノ事情差シ支ヘナク、且ツ適當ナル監督者アリタランニハ、地盤高クシテ空氣ノ爽快ナル箇所ニ轉地スルコトハ利益アルヘシ今轉地療養費ヲ最少額ニ見積リテモ一週間ニ就キテ十弗ヲ要スヘキナリ、但シ半慈善的療養所ニ入りタル場合ハ此限ニアラス、斯ル費用ノ支出困難ナル場合ニハ轉地療養ヲ爲シ得サルヘシ

ヒルリアー氏ノ説(倫敦ノ人)

肺病患者ニ取リテハ或ル時及他ノ時ニ於テ諸所ニ轉地シテ利益アルヘキナリ、高キ地盤、海岸、暖地、寒地、大洋、沙漠、赤道及極地等皆可ナラサルハナシ、之ヲ約言スレハ該患者ノ最モ重要視スヘキハ外氣中ニ棲息スルコト是レナリ

フリツク氏ノ説(費府ノ人)

肺病患者ノ治療上最モ大切ナルコトハ老練ナル醫師ノ助言忠告ヲ容ル、コト是レナリ、從來ノ醫師ハ頻リニ轉地療養ヲ主張シタレトモ、今日ニテハ自宅療養ヲ説クモノ少ナカラサルナリ、兎ニ角如何ナル治療法ニテモ氣永ニ辛棒セサルヘカラス、試ミニ思ヘ貧困ノ患者ハ費用ノ點ヨリシテ遠隔ノ箇所ヘ轉地スルコト能ハス、予ハ治療上轉地ノ必要ヲ見ストノ記録ヲ作ラント欲ス

アンダーズ氏ノ説(費府ノ人)(一千九百十一年發行「實驗醫學」ノ所載)

予ハ經驗ト觀察トニ依リテ左記ノ事實ヲ確カメ得タリ、曰ク獨リ病勢如何ニ依ルノミナラス或ル患者ニ取リテハ或ル轉地先ヲ撰擇シテ轉地スルコト最モ効力多キ場合少ナカラス、是レ他ナシ筋組織ヲ健全ナラシムヘキ作用アレハナリ、或ル結核患者ハ轉地療養ニ最モ善ク適シタル場合アリ、即チ轉地セラルカ爲メ心氣爽ヲ覺ヘ、食慾増進シ、能ク睡眠シ、皮膚ノ色澤ヲ増シ且ツ元氣快復スレハナリ

ラザム氏ノ説(倫敦ノ人)(「肺結核ノ診斷近代式治療法」ノ所載)

各所ノ療養所治療ノ結果ヲ視テ以テ左ノ事實ヲ得タリ、曰ク結核患者ノ轉地療養ニ關スル舊思想ノ大ニ誤リ居レルヲ見出シタリ、即チ轉地療養ハ結核患者維一ノ治療法タラスンハアラス、結核療養所ニ在リ多年患者ノ治療ニ從事シタル醫師ニシテ療養所ヲ辭シタラン者ハ、左記ノ事實ニ就テ異論ナカルヘシ、即チ出來得ヘクンハ結核患者ヲシテ悉ク皆ナ相當ナル箇所ヘ轉地セシメタランニハ、好結果ヲ得ルニ相違ナケレハナリ

ミノル氏ノ説(アセヅキールノ人)

結核患者ニシテ適當ナル箇所ヘ轉地ノ諸般ノ設備看護等行キ届キ得ル丈ケノ金圓之レアラニハ、轉地療養シテ効果アルヘキナリ、但シ轉地療養カ療養中ノ第一若クハ最モ重要ナルモノト云フヘカラス、轉地療養ヲシテ自家ニアルヨリ一層優レル有様タラシムルニ足ルヘキ金圓之レナカラニカ、自家ニ在

リテ手ノ届ク丈ケ充分ノ保養ヲ爲サン方遙カニ優レリト云フヘシ

ウオルス氏ノ説(府費ノ人)

結核患者ニシテ自家治療ノ出來得サル場合アランカ、何レノ所ニテモ治療シ得サルヘシ

ヲスラー氏ノ説(一千九百七年發行「實驗醫學」ノ所載)

(ハ) 轉地療養、轉地療養ナルモノハ畢竟スルニ外氣棲息法ノ變體ニ外ナラサルナリ、而シテ第一ノ先決問題ハ患者カ自家ヨリ他ヘ轉シ得ラルヘキヤ如何是レナリ、概シテ轉地スルハ積極的困難ヲ感セサルヲ得ス、肺中既ニ著シキ空竇ヲ生シ、消耗熱、盜汗及瘦削症ニ罹レル患者ハ自家ニ在リテ療養スルヲ以テ轉地ヨリ優レルモノトス、且ツ醫師ハ斯ル患者若クハ其朋友ヨリ治療ヲ切願シ來ルモ餘リニ重キヲ置カサルナリ

肺結核患者ノ病勢輕重ノ度合如何ニ從ツテ轉地療養ノ箇所ヲ撰擇セサルヘカラストノ議論モ多ク出ルコトナルカ、若シ其疾患カ僅カニ肺炎ノミニ止マリ且ツ其患者ノ資産カ轉地療養費等ニ差シ支ヘ之レナシトセンカ、斯ル患者ハ或ル箇所ヘ轉地シテ外氣棲息ヲナシタランニハ、病軍ト戰鬪シテ勝ヲ制スルノ機會ナクンハアラス、而シテ右或ル箇所ト云ヘルハ高地、乾燥地、寒地若クハ低地、濕地及暖地ノ類是レナリ

フランシス氏ノ説(費府ノ人)(一千九百七年發行「肺結核」ノ所載)

往時著シキ長キ期間山地若クハ高地カ結核療養所ニ適當シタル箇所ト見做サレタリ、尙ホ今日ト雖モ末々其可否ハ決セラレサルナリ、但シ斯ル療養所カ患者ニ取リテ効能アルハ休息、新鮮ナル空氣、食物、一定ノ管理ノ下ニ棲息スル等ニ基ツカスンハアルヘカラス、中ニ就テ新鮮ナル空氣ハ効能最モ著シキモノト謂フヘキナリ、轉地療養必スシモ必要ナルモノニアラス、自宅療養時ニ或ハ好結果ヲ生スル場合ナクンハアラス

ボンネー氏ノ説(デンヅハーノ人)(一千九百十年)

氣候ノ如何ハ結核治療法ノ補助トナルヘキモノナリ、然レトモ此治療法ニ好結果ヲ奏セシメンニハ老練ナル醫師ノ深キ注意ヲ俟タサルヘカラス、但シ氣候ノ如何ヲ撰擇スルハ最モ重要ナル事ニシテ苟クモスヘキモノニアラス、總テ肺結核患者タランモノハ銘々最モ適當スヘキ氣候ヲ撰擇セサルヘカラス、デンヅハーニ於テ予カ親シク診察シタル最近ノ患者三百十三名アリシカ内九十名ハ診斷上疑ヒナキ能ハス、他ノ百二十五名ハ種々入り組ミタル事情ノ爲メ、若クハ病勢大ニ進ミ居リテ激變ノ生スヘキ恐れアリタルカ爲メ轉地療養ニ不適當ナリシ

ボツテンガー氏ノ説(カリフホルニア、モンロウイアノ人)

均シク是レ治療ヲ施コス上ニ於テ轉地ヲナサハ一層利益多カルヘキナリ、然レトモ轉地ノ費用支出ニ差

支ヘアル患者ニアリテハ經驗ニ富メル醫師ノ指導ヲ受ケテ自宅療養ヲナサンコトヲ要ス、治療上都合善キ氣候必ラスナカルヘカラストハ云ヒ難キモ、斯ル氣候ハ治療ヲ容易ナラシメ之ト同時ニ効能モアルヘキナリ

ボウジツチ氏ノ説(ポストンノ人)

或ル人ノ説ニ曰最早ヤ今日ニ至リテハ結核患者ヲ遠隔ノ地ヘ移シテ療養セシムルノ必要ヲ見スト、又他ノ人ノ説ニ曰ク各結核患者ハ皆是レ轉地療養セシメサルヘカラスト、二者均シク是レ愚説ト云ハサルヘカラス、然シ一概ニ論定スヘキモノニアラス

ナイト氏ノ説(ポストンノ人故人)

轉地療養ノ効果アルコトハ今更疑フヘキ餘地ナキナリ、他ノ健康法ト相俟チテ轉地療養ノ効能アルコトハ確實ニシテ争フヘカラサルナリ

ノツフ氏ノ説(紐育ノ人)

肺結核患者ノ轉地療養殊ニ高燥ノ地ヘ移轉シテ保養スルハ効果アルコト亦疑フヘカラサルナリ、結核病ノ末期ニ達シタルモノ、外轉地療養ノ効果之レナキハナシ、但シ轉地療養ハ財産家ニシテ自カラ希望スルモノニ限ルヘキモノト知ルヘシ、氣候ノ好キ所ヨリ稍ヤ悪シキ所ヘ移轉スル場合ニ於テモ尙ホ且ツ幾干ノ効果アルヘキナリ、然レトモ轉地後ノ期間短カクシテ尙ホ未タ其風土ニ馴レス、病勢退治

セス若クハ防止セサル間ニ立チ歸リタランニハ、之カ惡影響ヲ受ルコト從前ヨリ一層甚タシキモノト知ルヘシ、又患者ノ居宅ヨリ餘リニ遠カラサル所ニ療養ニ最モ適當ナル箇所ノアルコトハ珍ラシカラサルナリ、例之ヘハ紐育ノ貧民窟ヨリノース、ブラザー、アイランドマテハ尙ホ市ノ區城内ナルカ故ニ左マテ遠カラスシテ、貧民患者ノ轉地療養ニ最モ善ク適當シタルカ如キコト是レナリ

結核患者ノ轉地療養所撰擇ニ際シテ患者ノ或ハ好ム所アリ或ハ嫌フ所ナクンハアラス、其轉地療養所ニハ寒冷ナル所、溫暖ナル所、低地或ハ高地ノ別ナクンハアラス、此等ノ箇所ノ内患者ノ性質トシテ或ハ好ミ或ハ嫌フ所アルハ勢ヒ免カレサル所ナリ、且ツ此療養所撰擇ノ場合ニ於テ患者ノ乾燥的鼻加答兒若クハ濕潤的鼻加答兒ニ羅リ居ルコトヲモ考ヘサルヘカラス、即チ前者ノ場合ニハ濕地ニ就クヘク後者ノ場合ニハ高地ヲ擇ハンコトヲ要ス、又結核患者ノ大多數(殊ニ勞働社會ノ患者ニ就テ云フ)ニシテ出來得ヘクンハ其轉地療養所ノ氣候カ、全癒後再ヒ業務ニ従事スヘキ箇所ノ氣候ト同一ナルヘキ様注意センコト最モ肝要ナリ

轉地療養ノ重要ナル他ノ治療法ノ重要ナルトノ比較

肺結核ノ治療法ニ關スル最モ重要ナル動力ヲ舉レハ左ノ如シ

- 一、十分ニシテ且智慮アル休息
- 二、適當ニシテ且十分ナル食物

三、純清ニシテ且多量ナル空氣

此等ノ動力カ老練ナル醫師ノ指導ノ下ニ患者ニ供給セラレタランニハ其衛生上大ニ効果アルヘキナリ、然レトモ此等ノ動力カ夫々如何ナル効果ヲ奏スヘキヤヲ指摘スルコトハ困難ナリト云フヘキナリ、且ツ此等ノ動力カ如何ナル患者ニモ皆是レ必要缺クヘカラサルモノト斷言スルコト能ハサルナリ、是レ他ナシ此等ノ動力ニ就テハ頓着スルコトナク甚タ不衛生ノ患者ニテモ恢復スルコト之アレハナリ、今數人ノ病理學者ハ左ノ如キ事實ヲ證明セリ、曰ク結核病ニ感染シタル患者ノ五〇%若クハヨリ以上自カラスル疾病ニ侵サレタリト知ラサル内ニ治癒スルモノナリ、然レトモ醫師ノ許ニ來リテ結核病ト診斷セラレタル以上ハ知ラス識ラスノ間ニ治癒スヘキモノニアラス、須ラク患者ノ資産ニ從ツテ休息、食物及空氣ニ留意セスンハアルヘカラス

結核患者ハ皆是レ此等ノ動力ヲ給與サレ得サルコトハ今更云フヲ要セサルナリ、此等ノ動力ヲ給與シ得ラ、モノハ結核患者中極メテ少數タラスンハアラス、限リアルノ財囊ハ限リアルノ休息ヲ與フルニ過キス、新鮮ナル空氣ヲ得ンニハ往々高價ヲ拂ハサルヘカラス、適當ナル食物モ亦然ラسنハアラス、市内ニ於ル新鮮ナル空氣ハ自カラ高價タラスンハアラス、是レ他ナシ高燥ナル土地ニ適當ナル家屋ヲ建設シテ初メテ新鮮ナル空氣ヲ享クヘケレハナリ、紐育市内ニ於テ斯ク新鮮ナル空氣ヲ得ンニハ果シテ幾千ノ價ヲ拂フヘキカ、何人ト雖モ容易ニ判斷シ得ヘキナリ、或ハ市外ニ移轉シテ新鮮ナル空氣ヲ取ランカ是レ亦高價タラ

スハアラス、即チ其家族ノ者カ市内ニアリテ日々若干ノ賃銀ヲ得ヘキヲ抛擲スル次第ナレハナリ、加之ナラス防寒ノ被服費モナカルヘカラス、患者固ヨリ貧困ナレハ相當ノ家ナク相當ノ食物ナク況ンヤ新鮮ナル空氣ヲヤ、轉地療養固ヨリ好結果アルヘシト雖モ事情ノ許サ、ルヲ如何セン

均シク是レ結核患者ニ夫々手當ヲ爲スコトナレトモ、其病症ノ輕重ノ度合ニ從ツテ斟酌スル所ナクンハアルヘカラス、今茲ニ一ノ患者アリ發熱、發汗及急激ニ消瘦スルノ症候アラシカ、斯ル患者ノ手當トシテハ餘事ハ差措キ專ラ病床ニ靜止セシメ空氣ノ流通ヲ善クシ滋養分ヲ取ラシメコトヲ要ス、又他ノ方面ニ於テハ患者ノ周邊ノ熱氣甚クシク塵埃若クハ煙害強ク、寒氣酷烈若クハ雪解ノ空氣肌ヲ刺シ、霧絶ヘス襲ヒ來ランカ、斯ル場合ニ於テニ如何ナル犠牲ヲ拂ツテモ轉地療養ノ方法ヲ取ラサルヘカラス

茲ニ資産豊富ナル患者アリ其身ノ周邊呼ヘハ直ニ怡樂ヲ取ルヘク到ル所何事ニテモ命ノ儘ニ從ハサルハナキ境遇ナランカ、斯ル患者ハ轉地療養モ其欲スルカ儘ニ爲シ得ヘキナリ、此際僅カニ注意スヘキハ療養地マテ旅行スル途中ノ困憊ト、療養地ニ於ケル氣候等天然ノ利益トヲ差引計算シテ果シテ何レカ重キヤヲ測知スルノ一事アルノミ、斯クノ如キ資産家ノ外其職業上轉地療養ヲ爲スニ甚ク便利ナルモノアリ、即チ僅些ノ犠牲ヲ拂ヒサヘスレハ容易ク轉地療養ヲ爲シ得ヘキモノ是レナリ、例之ヘハ鐵道ノ役員、電信技師及政府部内或ル部局ノ官吏等ニシテ自カラ結核病ニ罹ルカ、或ハ其家族中ニ斯ル患者アリタリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ轉地療養ニ適當シタル箇所ヲ撰ンテ、上長官ヘ斯ル箇所ニ轉任ヲ命セラレ度旨ヲ願ヒ出テ之

カ許可サヘ得タランニハ容易ク轉地療養ヲ爲シ得ヘキナリ、斯クテ聯邦政府ハ結核患者收容ノ爲メ乾燥セル南西地方ヲ轉ンテ三箇所ノ療養所ヲ設立シタリ、此地方ハ結核患者ニ最モ善ク適當シタル所ニシテ少年、成年ノ男生ヲ收容スヘキモノナリ、然レトモ各州各市ノ當局者ハ斯ク遠隔ノ地ナル療養所ヘ結核患者ヲ送致センヨリ其所轄内ヘ斯ル療養所ヲ設クルニ若カストノ意見ヲ抱ケリ、即チ經濟上ヨリ見ルモ便利上ヨリ考フルモ其所轄内ニ結核療養所ヲ設クルノ優レルコトヲ知了セリ、獨リ此等ノ當局者ノミナラス、患者自身ニ取リテモ亦同一ノ感ナクンハアラス

轉地療養ヲ忠告スルニ先ンシテ治癒ノ望ミナキ患者ヲ遠隔ノ箇所ヘ送

致セシメサル事

肺結核患者ニシテ最早ヤ治癒ノ望ミナキモノト斷定スルコトハ決シテ容易ノ業ニアラサルナリ、然レトモ病勢ノ餘程進ミタルモノニシテ其家庭ニアリテ其病勢ノ進行スルヲ一時タリトモ防止シ得サル場合アリトセンカ、斯ル場合ニ於テ好シ或ル地方ノ療養所ヘ移轉セシムルモ或ハ其他一層善キ境遇ニ變セシムルモ其甲斐ナカルヘキナリ、即チ長途ノ旅行ノ末好シ其氣候等ハ從前ト異ナル所アルモ其病勢ハ依然トシテ變ラサルナリ、病勢既ニ末期ニシテ其内臓ノ諸機關大破損ヲ生シ居タル場合ニハ亦如何トスルコト能ハサルナリ、時ニ或ハ命數旦夕ニ迫リタリト見ユル患者轉地療養ノ爲メ豫想外ニ恢復シ若クハ其命數ヲ長フシタル場合ナキニアラス、是レ轉地療養ノミ然ルニアラス、家庭ニアル場合ト雖モ斯ル現象ナクンハアラス、或ハ

轉地先ノ有様従前ヨリ一層劣レル所アリテ却ツテ患者ノ有様一層善クナルコトアリ、又之ト全ク反對ナルコトアリ一概ニ論定スヘカラス、ホルト、スタントンナル海軍病院附屬ノ療養所ニ於テ死亡者全數八百六十一名アリ、内到着後一ヶ月以内ニ死亡シタル者百三十名、同シク到着後一ヶ月以上六ヶ月以内ニ死亡シタル者三百八名アリシ、死亡スル者ニ取リテハ氣候杯ハ左マテ影響ヲ及ホスヘキモノニアラス、適當ナル注意ヲ怠ラヌ間ハ生存ラヘルモノト思ハル、又病症ノ幾干カ輕キ患者ニ取リテハ日々幾時間カ臨時其身ヲ日光ニ曝シタランニハ若干ノ効果アルヘキモ、死ニ瀕シタル患者ニ取リテハ其効果ナカルヘキナリ、到底見込ノナキ患者ハ療養所ヨリ追放スルコトナルカ實ニ悲慘極マレリト謂フヘシ、今公衆衛生課ノ調査ニ據ルニ見込ナキ患者ノ療養所ニ送致セラル、數ハ一層減少シ來レリ、是レ教育的布教ノ然ラシムル所ナルカ、結核患者ノ移住シ來レル數ハ決シテ減セサルナリ、殊ニ貧困ナル結核患者ニ至リテハ各慈善團體ノ救護ヲ受ケサルヘカラス、殊ニ南西部ニ於ル療養所ノ保護ヲ受ルコト、ナルヘキナリ

轉地療養ニ關スル心理作用如何

凡ソ結核患者ハ輕症ニシテ治療シ得ラルヘキ見込アルモノト重症ニシテ到底望ミナキモノトヲ問ハス、空氣ノ自由ニ能ク流通シ得ヘキ箇所ノ寢臺ニ横タラハシメタリトセンカ、假令一時タリトモ輕快ニ赴クヘク又或ル程度マテ快癒ノ方ニ赴クヘキナリ、

「結核患者ハ轉地療養ヲ爲サシムルニ先ンシテ自宅ヨリ餘リニ遠カラサル箇所ニ折々連レ行キテ保養セ

シムルハ最モ適當ナル方法ト謂ツヘキナリ、好シ十分ナル好果之レナシトスルモ幾干カ或ル症候ヲ輕減シ得ヘキナリ、既ニスル家庭ニアリテ治療ノ結果トシテ肺部ノ有様幾分カ靜隱トナリ滋養物ヲ取ルコトモ稍ヤ進ミ來レルハ畢竟スルニ心理作用カ與カリテ力アリト謂フヘキナリ、今其レ轉地療養ト云ヘルハ患者ノ自宅ヨリ遠ク隔リタル西部若クハ東部ニ移轉シテ治療スルノ謂ナルカ、斯ク轉地療養ヲ爲スニ先ンシテ右ノ如ク遠カラサル箇所ニ行キテ保養ナシ之カ準備ヲナスヘキナリ」(フランシン氏ノ說)

凡ソ結核患者タルモノハ悉ク皆平等畫一ニ取扱フヘキモノニアラス、個々別々ニ手當ヲ爲サ、ルヘカラス、是レ餘リニ數々唱道セラレサル說ナレトモ最モ至當ノ事ト謂フヘキナリ、例之ヘハ茲ニ一ノ婦人アリ極メテ神經過敏ニシテ最モ甚タシク寒氣ヲ怖レ、新英吉蘭ノ冬季嚴寒ニ際シテ彼ノ廊下生活ハ到底爲シ能ハサルモノナリトセンカ、斯ル婦人ハ南方ノ冬季餘程温和ナル箇所ニ赴キテ保養ナシタランニハ相當ノ好果アルヘキナリ、結核患者ノ轉地療養ニ就テハ此邊ノ事ニ深ク留意セサルヘカラス

結核病襲來ノ概況

結核病ノ人體ヲ襲ヒ來ルヤ單ニ肺組織ノミニ限ラサルナリ、結核患者トシテ尙ホ未タ左マテノ症候ヲ表ハサ、ル者カ醫師ノ許ヘ來リテ診察ヲ乞フタル場合ニ於テ、其唾液中ニ結核菌ヲ見出スコト往々ニシテ之レアリ、而シテ斯ル患者ハ胸腔専門ノ醫師ノ診察ヲ乞フヘク、此専門醫ハ是時ヨリ遡ホリテ數年前既ニ結核病ニ侵サレタルモ知ラス識ラスノ間ニ打チ過キタルモノナリトテ、病勢停止策ヲ講スルニ至レリ、斯ル患

者ハ其肺ノ一部分ハ結核ニ侵サレタルモ其他ノ部分ニ至リテハ病勢停止サレタルモノト謂フヘキナリ、又久シク結核ニ侵サレタルモノニシテ腎臟肥大シ腎臟カ澱粉質トナリタル等ノ症候アラシカ、好シ其症候ハ輕微ナルノ觀アリト雖モ到底治癒スヘキ望ミ之レナキモノト知ルヘキナリ、結核病ニ加ヘテ他ノ疾病カ併發シタラン場合ニハ、老練ナル専門醫ニ依頼シテ毫モ他ヲ顧ミス轉地療養杯ニ迷ハス治療ヲ受ケンコトヲ要ス、概シテ他病ノ併發シタル時ハ最モ經驗ニ富メル看護婦ヲ雇ヒ入レテ靜カニ病床ニ横ハリテ療養スルコソ最モ得策ナルヘケレ

地方療養所ノ事

地方ニ在ル所ノ結核療養所ノ實況ヲ僅カニ二三ヶ月ニテモ視察シタランニハ、結核療養上如何ニ効力著シキカヲ知ルニ足ラルヘキナリ、此種ノ療養所ハ殆ント日々増加シツ、アリト云フモ決シテ妨ケナキナリ、大市邑ヲ距ルコト僅カニ數哩ノ箇所ニ斯ル療養所ヲ見ルコト尠ナカラサルナリ、而シテ此等ノ療養所ニハ全ク慈善的ニ成レルモノアリ或ハ半慈善的ノモノアリ、若クハ斯ル患者收容ノ爲メ新鮮ナル空氣流通ヲ專ラトスル私設病院ノ如キモノアリテ、皆是患者ノ療養上心得トナルヘキコトヲ夫々訓諭スルヲ怠ラサルナリ、患者モ亦斯ル療養所ニ入りタル以上ハ醫師及掛員ノ指導スル所ニ從ツテ專心一意以テ衛生上ニ注意セシコトヲ要ス、又此等ノ療養所ハ結核病ノ救治療養上ニ就テ教誨訓諭スルコトヲ怠ラサルヨリ一面ヨリ之ヲ見レハ恰カモ學校ノ觀ナクンハアラス、サレハニヤ近キ頃北加路里那州ニ於テハ州立療養所ノ名ヲ變シ

テ州立結核療養研習學校トセリ

一般ノ開業醫ノ見地

或ル家々ニハ得意醫師ナルモノアリテ平生其家族ノ衛生狀態ニ注意スルコトナルカ、斯ル醫師ニシテ其家族中ニ結核病ニ罹レルモノアルヲ見出シタル場合ニ於テ、直チニ其胸中ニ浮ヒ出ル問題アリ、斯ル患者ノ有スル資産ノ許ス範圍内ニ於テ施コスヘキ最良ノ救治策ハ果シテ如何ト云ヘル問題はレナリ、エドソレ氏ノ說ニ曰ク『斯ル問題ヲ解決スルハ左マテ難事ニアラス、此際醫師ノ取ルヘキ最良ノ手段ハ患者ニ供スル食物ハ爾々、其寢所ハ斯ク〜及空氣ノ流通ハケ様〜ト命令ヲ下セハ定ランノミ』若シ又結核患者ノ發シタル家カ財產家ナリトセンカ、斯ル場合ニ於テハ醫師ノ立場ハ單純ナランノミ、即チ轉地療養ノ必要ナルヤ否ヲ解決シ既ニ必要ナリト認メタランニハ、爾カ〜ノ箇所カ最モ適當ナルヘシト勸告スレハ足ランノミ、患者ハ固ヨリ資産家ノ事ナレハ到ル所百事宜ノ如クナラサルハナク、歡娛怡樂ノ爲メニハ如何ナル方法手段ヲ取ルモ妨ケナク此等ノ事ニ就テハ更ニ心ヲ勞スルニ及ハサルナリ、然レトモ結核患者ノ大半ハ資産家ナラサルカ故ニ然ルコト能ハサルナリ、斯ル患者ノ轉地療養ヲ爲スニ就テハ何レノ點ニカ不便不都合ナル所ナクンハアラス、此種ノ患者ノ轉地療養ノ可否ニ就テハ得意醫師ノ意見ニ從フコト然ルヘキナリ、然レトモ得意醫師ニシテ結核救治ノ研習ニ未熟ナランカ、斯ル醫師ノ意見ニハ誤解アルヘク誤解アル意見ニハ從フヘカラス、此邊ニ就テハ深ク留意センコトヲ要ス、或ハ得意醫師ニシテ其患者ハ轉地療養ノ必要ナク家

庭ニアリテ救治スヘシト断定シタル場合スラ、他ノ醫師ノ意見ニテハ數ヶ月間地方ノ療養所ニ移シテ治療セシムヘシト主張スルモノアリシ、サレハ得意醫師ノ意見悉ク皆是認スヘキモノニアラサルナリ

療養地専門家ハ各々爾々ノ箇所ノ氣候ハ結核療養ニ最モ善ク適當シタルコトヲ唱道シ、結核患者カ此等ノ地方ニ移轉シテ療養スルノ必要ナルヲ説カサルハナシ、而シテ結核患者ハ遲疑猶豫スル所ナク轉地シテ療養スヘク、而シテ其轉地先ヘ滞在スヘキ期間ハ二ケ年乃至五ケ年ナルヘシ、成ルヘク再ヒ自宅ヘ立チ歸ルコトノ晩カラシコトコソ望マシケレ、且ツ此等ノ患者ノ衛生上及醫藥上ニ關スル事柄ハ自宅ニアル時ト轉地先ニアル時ト其間毫モ異ナル所ナカラシコトヲ要ス、是レ皆療養地専門家ノ主張スル所ナリ

然レトモ轉地療養ヲ患者ニ勧誘セントスル場合ニ際シテ、自宅ヨリ程近キ療養所ヨリ却ツテ遠隔セル療養所ノ方ヲ患者ノ擇ヒ取ルコト多キニ居レリ、既ニ成人ニ達シタル男子ニアリテハ其平生従事シ居ル業務ヲ抛ツニアラスンハ遠隔セル療養所ニ赴クコト能ハサルナリ、殊ニ斯ル疾病ニ罹リタル醫師ニアリテハ最モ然リトナス、而シテ斯ル患者カ遠隔セル療養所ニ赴カント決心スルマテノ運ヒトナルマテカ容易ノコトニアラス、或ハ自分ノ止ムヲ得サル故障ノ爲メ或ハ其親戚朋友等ノ押シ止ムルカ爲メ出發シ兼ネル場合アリ、兎ニ角其可否ヲ決スルコトハ其家族ノ得意醫師ニ一任センコトヲ要ス、深窓ニ養ハレタル女生ハ其兄弟ヨリモ轉地療養ヲ好マサルモノ多シ、年若キ男子ハ往々之ヲ好ムト雖モ中年ヲ過キタル者ハ家庭ニ執着スルコト強クシテ遠地ヘ赴クヲ好マサルモノナリ、此外餘リニ若キ者若クハ餘リニ年老イタル者モ亦然リ、肺結

者ノ轉地療養ニ就テハ其患者ノ近傍ノ地カ然ルヘキカ、將タ遠隔ノ箇所カ適スヘキカ、一時的ナルヘキカ久シキニ亘ルヘキカ、其何レヲ取ルヘキカ決センハ専ラ醫師ノミニ限ルヘキニアラス、之ニ伴フ所ノ事情ニ從ツテ臨機ノ處置ナカルヘカラス、即チ患者ノ年齢別、男女別、社交上ノ、貧富ノ程度、欲望及其疾病ノ重輕ノ度合ニ從ツテ決定セスンハアルヘカラス、此外患者居住所ノ氣候及年ノ季節等ヲモ考ヘ合サ、ルヘカラス、又他ノ方面ヨリ之カ觀察ヲ下サンニ結核患者ノ轉地療養所ニ全ク不適當ナリト断定スル箇所モナケレハ、轉地療養所トシテハ其他ニアルマシト云フ程ノ適當ナル箇所モアラサルナリ、其間多少ノ利害得喪ノ相伴フハ亦數ノ免カレサル所ナリ

自家ノ氣候

年ノ或ル季節ニ際シテ某地方ノ天候カ甚タ佳適ナルノ故ヲ以テ他ノ地方ヨリ來リテ一時的保養所トナスハ珍ラシカラサル事實ナリ、試ミニ見ヨ健康ナル人民カ炎熱極マル市邑ヲ去ツテ最モ近キ清涼ナル地ニ赴ケル時、醫師ハ其受持ノ肺病患者ヲシテ然カセシムルニアラスヤ、最モ酷烈ナル炎熱ヲ避ケテ他ノ涼地ニ移ルハ畢竟スルニ寒冷ナル空氣カ代謝作用ヲ興奮セシムルノ効用アレハナリ、殊ニ肺結核患者ノ療養ニ適當ナルモノト謂フヘキナリ、彼ノコロラド地方ノ如キハ土地高燥ニシテ寒冷ノ際ハ人ノ食欲ヲ増進シ同化作用ヲ強カラシムル結果ヲ生スルモノナリ、市民ノ大多數ハ夏期中近傍ノ涼地ヲ擇ンテ保養所トナセルカ、肺病患者モ此等ノ地ヲ其療養所トナスンハアラス、合衆國中ニハ市中ヨリ近キ箇所ニ轉地療養ニ適スヘ

キ所ハ殆ント之レナキナリ

或ル大市邑ヨリ僅カニ數時間乗リ出セハ到着シ得ラルヘキ箇所ニ愉快ナル保養所ヲ見出シ得ヘキナリ、
ウハーチニア及ペンシルヅハニアノ山中ニハ肺病患者ノ療養所ニ適シタル箇所少ナカラサルナリ彼ノアジ
ロンダツクスノ氣候ノ如キハ此地方ノ樹木繁茂セル療養所ノ代表者ニ過キサルノミ、加奈太方面ニ接シタ
ル各州ハ殆ント皆地方相當ニ高クシテ空氣人意ヲ怡ハシメ戶外生活ニ最モ適當シタルモノナリ
マツサチウセツトノ中心高原ハ其廣サ七百里ヲ有シ、其内ニハ小市邑ノ二十箇所モアリテ何レモ皆ナ其
地盤カ海拔一千呎若クハヨリ以上アリシ、而シテ此等ノ市邑ノ一タルラツトランドニハ州立療養所アリ、
此所ヨリ六十哩隔タリタルグレイロツク山ガ一ケ年ノ内六十日間ハアリト見ルコトヲ得ヘキナリ、且
ツ此等ノ地方ハ近ツキ易キ箇所ニシテ州立療養所モ好結果ヲ奏シタルヨリ私設療養所モ續々起リツ、アル
ハ亦喜ハシキ現象ナラスヤ

紐育市ノ周邊ナルウルスタール。グリーン。シユイルウハン等ノ諸郡ハ肺病患者ニ取リテ最モ都合善キ箇所
ト謂フヘキナリ、費府ノジヨンドト云ヘル所ハモンロウ郡ニアリ海拔一千八百呎乃至二千呎アリテメー
ヨリ南太平洋海岸マテノ内ニ清涼ナル海濱療養所ノ設ケアルコト數百ニ達セリ

且ツ一ケ年ヲ通シテ何レノ時ト雖モ肺病患者ノ療養所ニ充ツヘキ好氣候ヲ有スル箇所ハ曾テ之レナキナ
リ、是レ人ノ念頭ニ存シ置クヘキ事ナリ、試ミニ見ヨデンバーノ市ノ醫師ハ時トシテ其患者ヲ年ノ内僅カ

ニ數ヶ月間隣接セル山地ニ移シテ療養セシムルコト、セリ、是レ畢竟スルニ市内ノ天候甚タ不良ナルヲ避
ケシメントスルニ外ナラス、ホーニツキス人クレীগ氏ノ説ニ曰クアリゾナノ人カ年ヲ通シテ健康上最モ
適當ナル箇所ヲ擇フトセンカ、斯ル人ハ夏季ニ際シテハフラグスタツフヲ、秋季ニ際シテハブレスコツト
ヲ、冬季及春季ニ際シテハホーニツキステ擇フヘキナリ、彼ノ地ト此地ト左マテノ隔リ之レナシト雖モ其
氣候ノ甚タ違フコトハ珍ラシカラサルナリ、カリホルニアトコロラドトノ兩所ノミナラス、山地ト大洋ト
相接近セル東方諸州ノ如キモ亦然ラサルハナシ

結核患者カ家庭療養ニテ好結果ヲ奏スル場合少ナカラサルナリ、但シ此家庭療養ノ意義ハ最モ廣ク解釋セ
ラル、モノト知ルヘシ、其患者ノ住スル本州以内ニ左マテ隔クリ居ラサル箇所ニ於テ、保養スルモ尙ホ是
レ家庭療養ト見做スカ如キコト是レナリ、苟クモ本州内ナランニハ到ル所概ネ其狀況ノ知了セラレタルモ
ノニシテ、特ニ擇ヒタル遠隔ノ轉地療養所ニ關スル觀念トハ自カラ異ナル所ナクンハアラス、他ノ轉地療
養所ナランニハ聊カ不安心ノコトアルヘクモ、本州内ニテハ自カラ安心スヘキナリ、是レ家庭療養所ノ益
アル所以ナラスヤ

自宅ヨリ程遠カラヌ療養所ハ概シテ結核患者ニ取リテ便利ナリト謂フヘキナリ、蓋シ斯ル患者カ全ク其業
務ヲ休マサルモ可ナルヘク、且ツ其家庭周邊ノ不快ナル狀況ヲ一時避クルコトヲ得ヘケレハナリ、而シテ
一般ノ多忙ナル開業醫ハ近傍ノ療養所ノ利便ナルコトヲ實見セサルモ、其療養上好結果アルヨリ勢ヒ遠隔

ノ療養所ハ閑却セラル、ニ至レリ、竟畢スルニ近傍ニ於ケル療養所ハ遠隔ノ其レニ比シテ費用一層少ナキ
モノナリ、是レ患者ノ概シテ利便トスル所ナリ

今左ニ掲クル所ノ表ハ好シ不十分ナリトスルモ諸ロノ州立療養所ノ所在地ヲ示シタルモノナリ、選擇其宜
シキヲ得タランニハ其州ノ健康地ノ代表者ト謂フヘキナリ、而シテ斯ル公立療養所ノ監督者タランモノハ
其近傍ニ於ル私設療養所ノ所在地ヲ知悉スルノ要アルヘク、又其本州ニ於ル結核病ノ有様ニ關スル他ヨリ
ノ諮問ニ應スルノ責任モ多少之レナクンハアラス、今療養所ノ所在ヲ舉レハ左ノ如シ

アーカンサス州、ブーネヅキール

コネクチカット州、ハートフホルド。メリデン、ノウウヰツチ。及セルトン

デラワール州、マーシャルトン

ゼラールヂア州、アルトウ

インヂアナ州、ロツクヰキール

アイオワ州、オークダール

カンサス州、ノルトン

メイン州、フハ井アフヒールド、及ヘブロン

マリールランド州、州立療養所。サリスバリー及ツーン

マツサチウセツト州、ラットランド。ミツドルボロウ。ノウス、ウヰルミントン。ウエストフヒール

ド。トウキツキスバリー

ミシガン州、ホーウエル

ミンネソタ州、州立療養所（カツス郡ニアリ）

ミツンリー州、ヰエルノン山

モンタナ州、デアー、ロツヂ

ネブラスカ州、キールネー

ニウハムプシヤキアー州、グリネリツフ

ニウザーセー州、グレンカードナー

紐育州、レーブルツク

ノウスカロリナ州、療養所

ノウスダコタ州、ダンセース

オハ井オ州、ヰユルノン山

オレゴン州、サレム

ベンシルヴハニア州、アルトウ山。クレツソン。及ハムハーグ

ロードアイランド州、ウオーラム、レーキ
 ソースカロナ州、コロンビア
 ソースダゴタ州、カスター
 テキサス州、カールスバッド
 ヴァーモント州、ビッツフホルド
 ヴァーヂニア州、カトウバ療養所、(ローノク郡ニアリ)
 ウェスト、ヴァーヂニア州、テラアラタ
 ウキスコンシン州、ステートサン(ウオーケサ郡ニアリ)

特別療養所

肺病患者ヲ地盤高キ箇所ニ送リテ療養セシムルコトハ、之ヲ他ノ通常ノ療養所ニ比較スレハ好結果ヲ奏スルコトアリ、若クハ却ツテ悪結果ヲ來スコトアリ、決シテ一概ニ論定スヘキモノニアラス、合衆國中ノ高キ地方ハ乾燥シテ好天氣多ク日光ノ照量甚タ多ク涼氣ニ富ミテ何トナク、爽快ノ念ヲ懷ハシムルモノナリ、斯ル高燥ノ地ニ保養シテ好結果ヲ得ル患者少ナカラスト雖モ、斯ル箇所ノ稀薄ナル空氣ノ爲メニ害セラル、モノモ亦多カルヘキナリ、地盤ノ高キ箇所ヲ療養所トナスノ不可ナルコトハ何人モ異論ナキ所ナリ、今左ニ掲クル所ノ數者ハ斯ル箇所ヲ其療養所トナスノ不適當ナルモノト謂フヘキナリ、曰ク活力乏シ

ク循環機能微弱ナルモノ。中年若クハ老年ニシテ熱性ノ元氣衰ヘタルモノ。神經質若クハ怒リ易キ性質ノモノ。病勢既ニ進ミテ家庭療養ニテ一時的防止策ヲモ爲シ得サルモノ。肺組織甚タシク害セラレ既ニ消化不良ヲ惹キ起シタルモノ。過尿症、腎炎、氣腫、乾加答兒等ニ侵サレタルモノ、如キ是レナリ

然レトモ尙ホ年若キ成年ニシテ右ニ掲ケタル諸症中ノ何レニモ侵サレ居ラスシテ適當ナル醫師ノ伴ハル、アリトセンカ、斯ルモノハ高燥ノ地ニ保養シテ最モ好結果アルベキナリ、即チ減退セル食欲ヲ増進スヘク濕潤的加答兒ノ苦痛ヲ輕減シ以テ健康ノ度合ヲ増長セシムヘキ好果アルヘキナリ、然レトモ各患者皆ナ然ルヘキ結果アルモノニアラサルナリ、彼ノホルト、スタントンナル海軍病院附屬療養所ニ最初收容サレタルモノ二千五百八十八人アリシカ、内死亡シタルモノ八百六十一名ニ達シタリ、吾人カ今日有スル所ノ知識ヲ以テ付度スルニ右療養所ニ收容サレタル患者ノ大半ハ斯ル療養所ニ送致スルニ不適當ナルモノナリシラン、否ラスンハ死亡率ノ斯ク夥多ナルコトナカルヘキナリ、然レトモ一旦斯ル療養所ニ收容セラレタル以上ハ、公衆衛生上ノ見地ヨリシテ尙ホ留置センコトヲ要ス、但シ自宅ヘ歸リタランニハヨリ好キ攝生法ヲ受クヘキ準備整ヒ居ラン場合ハ此限ニアラス

今左ニ掲クル所ノ表ハ海拔四千呎乃至七千呎ノ高地ヲ示スモノ、即チ高燥ニシテ結核患者ノ療養所ニ適スルモノ是レナリ、然レトモ右ニモ述ヘタルカ如ク斯ル高燥ノ地ニ適當シタルモノニ限ラレタルコト無論ナリト知ルヘシ

アリゾナニ於テハフラッグスタツフ。オレークル。ブレスコット。コロラドニ於テハボールダー。ブラツ
 ス。カノン市。コロラド。スプリング。デンバー。ズレンウッド。スプリング。ニウ、メキシコニ於テハ
 アラモゴルト。アルブキエルク。イースト、ラス、ベツクス。ラス、ベツクス。リンコルン。サンタ、フ
 へ。シルヴハー市。テキサスニ於テハアルビン。マルフハ。ウ井オミングニ於テハチエンネノ如キ是レナ
 リ

乾燥セル南西部ニ於ル相當ノ高地ハ概シテ乾燥セル氣候ノ特性ヲ有スルモノナリ、斯ル箇所ハ夏月ノ間右
 ニ述ヘタル高地ニ比較シテ愉快ノ度合一層少ナキモ、冬季ノ夜間ニ至リテハ彼レヨリ温和ナリト知ルヘシ、
 但シ右ニ述ヘタル高地ト云ヒ此南西部ニ於ル高地ト云ヒ共ニ是レ時々塵埃ノ大荒ニ遭遇セスンハアラス、
 斯ル大荒ハ重モ二年ノ四五月ノ頃モ起ルモノナリ、今左ニ掲クル所ノ箇所ハ皆ナ是レ海拔二千呎乃至四千
 三百十五呎ノ高地ニシテ其氣候温和ナルモノナリ、アリゾナニ於テハカツスル、クリーキ及タクソン。ニ
 ウ、メキシコニ於テハカールスバツド。デミング。ラス、クルーセス及ロスウエル。テキサスニ於テハボ
 ールネ及イル、バソウノ如キ是レナリ
 布哇、フロリダノ或ル箇所及南カルフォルニアノ海岸ノ如キハ氣候温和ニシテ餘リニ變化ナキ所ナリ、此
 等ノ箇所ハ冬季ノ療養所トシテ効果アルヘク、又腎炎及組織上ノ變化餘程進ミタルモノ、老年者及氣管部
 ノ非常ニ傷害サレタルモノニ取リテ著シキ効果アルヘキナリ

肺病患者カ轉地療養ヲ爲サント欲スル場合ニハ深く注意スル所ナクンハアルヘカラス、先ツ第一注意ヲ要
 スヘキハ轉地先ニ於テ自分ノ療養上必要ナル設備ノ缺クル所ナキヤ否ヲ取調フルコト是レナリ、テキサス
 州ニ於ル或ル有名ナル療養所ハ貧困ナル患者ヲ以テ充サレタリ、此等ノ患者ハ東部地方ノ住民ニシテ久シ
 ク自宅ニアリテ耐忍シ居タリシカ、既ニ家産モ無クナリタルヨリ止ムヲ得スシテ斯ル療養所ノ救助ヲ受ル
 コト、ナリタルモノナリ、然レトモ此等ノ療養所ハ普通ノ患者ニ取リテハ不適當ナル所ナクンハアラス、
 概シテ之ヲ言ヘハ此等ノ療養所ハ多クノ價值アルモノニアラス、各療養所ニ就テ其良否如何ヲ判定セサル
 ヘカラス、茲ニ國民結核豫防協會ナルモノアリテ合衆國及加奈太ニ於ル結核療養所案内ヲ出版セリ、又合
 衆國官憲ノ機關トシテ『戶外療養雜誌』ヲ發行セルカ、其發行所ニ於テハ療養所、寄宿所、保養所及此等ノ
 箇所ニ關スル狀況ヲ印刷シ無代價ヲ以テ希望者ニ交付セリ、之ヲ見レハ療養所ノ所在地其他ノ有様モ得テ
 判明スヘキナリ

結核ニ關スル出版物

(合衆國公衆衛生課ヨリ出版サレタル結核ニ關スル書籍、此等ノ報告及再版書ハ概シテ華盛頓府ノ合衆國
 公衆衛生課ヘ願ヒ出レハ無代價ニテ授與セラルヘキナリ、但シ『上等製本』ノ分ハ特定ノ代價ニテ文書課
 長ノ手ヲ經ルニアラスンハ得ルコト能ハサルナリ)

衛生試験所ノ報告書

第五十七版、第一版、「臨床的及實驗的結核循環血液中ニ於ル結核菌ノ存在」、著者ジョン、エフ、アンダーソン氏。第二版、「結核菌ノ發育」、著者エム、ゼー、ロセナン氏。一千九百九年九月出版、上等製本代價五仙

第九十九版、「フライドマーン」式結核療法、此書ハ結核ニ關スル調査ヲ命セラレタル某局ノ報告ニ係ルモノナリ、著者ハジョン、エフ、アンダーソン及アーサー、エム、スチームソンノ兩氏、一千九百十四年十月出版、上等製本代價拾仙

第一百版、第一版、「結核病ノ固定」、著者エー、エム、スチームソン氏、(此外ノ書アルモ結核ニ關セサルモノ故之ヲ略ス)

公衆衛生上ノ報告書

第三十六版、「結核ノ性質及豫防」、著者エス、シー、スミス氏、一千九百十年出版
第五十三版、「加里保留尼亞ニ於ル鼠族中ノ「ベスト」及結核ノ研究」、第六版ハ「土中ノ栗鼠結核ニ侵サレ易キ事」ナリ、著者ゼオーデ、マッコ井及チャーレス、チャピンノ二氏、一千九百十二年一月出版、上等製本代價五仙

第五十八版、「幼童中ノ結核治療及豫防ニ關スル外氣的小學」、著者ビー、エス、ウオーレン氏、一千九百十二年十月出版、上等製本代價十五仙

第六十版、「結核患者ノ遵守スヘキ規定」、著者エフ、シー、スミス氏、一千九百十三年一月出版、上等製本代價五仙

第七十三版、「勞働者中ノ結核患者」、此書ハシンシンナチーニ於テ特ニ結核ノ原因ニ關シテ調査ヲ遂ケタル結果ノ報告ニ係ルモノナリ、著者ロビンソン及ウヰルソンノ二氏、一千九百十六年三月出版

公衆衛生上ノ報告ヲ再版シタルモノ

第三十九版、「結核退治同盟會ノ活動計畫」、著者シー、ビー、ウエルテンペーカー氏、一千九百九年九月三日出版、上等製本代價五仙

第五十一版、「高地(海拔六千二百呎)ニ於ル結核患者ノ肺出血」、「五十六名死亡ノ報告」、併發セル心臟病ノ數々起ルコト、著者エフ、シー、スミス氏、一千九百十年十月出版、上等製本代價五仙

第二百二十五版、「フライトマン」式結核療法、此書ハ公衆衛生課ノ事務室ニ於テ調査研究シタル結果ノ報告ニ係ルモノナリ、一千九百十三年五月十六日出版

第四百十五版、「ニウ、メキシコノフホルト、スタントナル結核療養所」、此書ハ公衆衛生課ノ所轄ニ係ル結核患者療養所ノ報告ナリ、但シ一千九百十三年六月三十日ヲ以テ終末トセル年報ト知ルヘシ、著者エフ、シー、スミス氏、一千九百十三年十月十七日出版

第五百十八版、「瑞西ニ於ル結核」、此書ハ結核退治ノ報告ニ係ルモノナリ、著者ルツカー、キールニーノ

二氏、一千九百十三年十二月出版

第二百十六版、「ニウ、メキシコノフホルト、スタントンニ於ル結核療養所」、此書ハ公衆衛生課ノ所轄ニ

屬スル結核患者ノ救治ヲ主トスル療養所ノ年報ニ係ルモノナリ、但シ此年報ト云ヘルハ一千九百十四年

六月三十日ヲ以テ終末トセルモノト知ルヘシ、著者ハエフ、シー、スミス氏、一千九百十四年八月廿八日

出版

第二百廿一版、「結核」、此書ハ効果アルヘキ療養所搜索ノ爲メ自宅ヲ立テタル患者ノ狀況ヲ經濟上ヨ

リ觀察ヲ下シタルモノナリ、著者トムソン、フレイヂアー氏、一千九百十四年九月十八日出版

第二百四十三版、「地方委員會ニ於ル結核問題」、此書ハ衛生官カ現今ノ見地ヨリ結核ヲ研究調査シタル結

果ニ係ルモノナリ、著者アドルフ、ノツフ氏、一千九百十四年十二月十八日出版、上等製本代價五仙

第二百四十九版、「結核病ノ蔓延」、此書ハミンネツタニ於ル五郡中結核患者發生ノ某々家族ヨリ他ヘ蔓

延シタル狀況ニ係ルモノナリ、著者ラムブソン氏、一千九百十五年一月八日出版、上等製本代價五仙

第二百六十五版、「各州間ニ移住スル結核患者」此書ハ公衆衛生課カ特ニ南北カロリナノ諸州ニ關シテ調

査シタル結果ニ係ルモノナリ、著者ハフホスター氏、一千九百十五年三月十二日出版

第二百六十六版、「各州間ニ移住スル結核患者」此書ハ公衆衛生課カカリホルニア州ニ就テ調査シタル結果

ニ係ルモノナリ、著者カーリントン氏、一千九百十五年三月十九日出版

第二百六十九版、「各州間ニ移住スル結核患者」、此書ハ公衆衛生課カ特ニテキサス及ニウ、メキシコニ就

テ調査シタル結果ニ係ルモノナリ、著者アーネスト、エー、スウ井ト氏、一千九百十五年四月九日、十

六日、二十三日ノ出版

第二百八十二版、「結核病」、此書ハ結核ニ就テ市ノ保護、監督ノ結果ニ係ルモノナリ、一千九百十五年六

月十八日出版

第二百八十三版、「各州間ニ移住スル結核患者」、此書ハ公衆衛生課カ特ニアリゾナ及コロラドノ諸州ニ係

ルモノナリ、著者ランザ氏、一千九百十五年六月十八日出版

第二百九版、「結核病」、此書ハ特ニ其感染、傳播及豫防等ニ就テ調査シタル結果ニ係ルモノナリ、著者

ゼオーチ、エム、ヨーパー氏、一千九百十五年十月廿九日出版

公衆衛生課報告ノ附録

第三版、「結核病」、此書ハ其原因豫防等ニ係ルモノナリ、著者エフ、シー、スミス氏、一千九百十三年二月

七日出版

第二十六版、「インジアナ州リツチモンドニ於ル公衆衛生行政」、此書ハ結核蔓延ノ範圍如何ヲ決定スヘキ方

策ノ報告ニ係ルモノナリ

關係ノ出版物

(結核豫防ハ人々ノ衛生上ノ注意ニ基ツクモノ多キカ故ニ、斯ル豫防ニ關係セル普通の出版物ハ尙ホ一層多ク配布センコトヲ要ス、而シテ此等ノ出版物ハ華盛頓府ノ合衆國公衆衛生課ヘ下渡方ヲ願ヒ出レハ無代價ニテ交附セラルヘキナリ)、

公衆衛生課ノ報告

第六十九版、「腸窒扶斯」、此書ハ此疾病ノ原因及豫防ニ係ルモノナリ、著者ラムスデン氏、一千九百十五年五月出版

第七十六版、「衛生保險」、此書ハ此保險ト公衆衛生トノ關係ヲ示セルモノナリ、著者ウオーレン、エドガ
ー、シデンストリツカーノ二氏、一千九百十六年三月出版

第七十八版、「青年間職業ノ衛生上ニ及ホス影響」、此書ハマツサチウセツトノ綿工場ノ女工十八歳以下ノモノ六百七十九名ノ身體検査ノ結果ニ係ルモノナリ

公衆衛生課報告ノ再版

第百版、「百日咳」、此書ハ此疾病ノ性質ト豫防法トヲ示シタルモノナリ、且ツ此疾病ハ世間アリフレタル所ヨリ世人決シテ重キヲ置カス、從ツテ大ニ蔓延シ且ツ危險状態ニ陥ル等ノ弊ヲモ摘發セリ、著者ラツカー氏、一千九百十二年十月二十五日出版

第百十六版、「地方小學及地方衛生」、此書中ニハ左ノ如キ事ヲ記述セリ、曰ク一郡中ニ於ル六小學ヲ實例

トナシ、當郡ハ其所管中ノ小學ニ於テ醫事的検査ヲ行フノ必要ナキヤノ疑問ヲ起シ、其他地方小學教員ニ關スル事柄ヲ述ヘタルカ如キ得レナリ、著者ウハーデル、スチレス氏、一千九百十三年二月七日出版
第百五十版、「個人ト公衆衛生」、此書ハ個人ト社會一般ノ衛生トノ關係ヲ示セルモノナリ、著者ジョン、タブリユウ、トラスク氏、一千九百十三年十一月七日出版

第百九十五版、「工場状態」、此書ハ工場ト公衆衛生トノ關係ヲ示セルモノナリ、著者ウオーレン氏、一千九百十四年五月二十九日出版

第百九十七版、「工業的保險」、此書ハ保險ノ基礎トシテ被雇人ノ身體ニ就テ醫事的検査ヲ爲シ且疾病豫防等ノ事ヲ示セリ、一千九百十四年六月五日出生、著者スヘレスチースキー氏、

第百三十四版、「労働者ク身體検査」、著者スヘレスチースキー氏、一千九百十四年十二月二十日出生

第百五十版、「疾病保險」、此書ハ此種ノ保險ト公衆衛生トノ關係ヲ示セルモノナリ、著者ウオーレン氏
一千九百十五年一月八日出生

第百八十七版、「消毒法ノ實地應用」、著者ハツセルチン氏、一千九百十五年七月二日出生

第百六版、「幼童ノ肺力」、此書ハエツキス市ニ於ル小學々童(白人種)一千六百十八名(男生七百五十一名、女生八百六十七名)ノ肺力如何ヲ呼吸計ニテ試験シタル結果ヲ示セルモノナリ、著者スチレス及フ
ロ非ド、クレーヴズノ二氏、一千九百十五年十月十五日出生

- 第一版、「麻疹」、著者ラツカー氏、一千九百十三年一月二十四日出版
- 第二版、「戸内ノ熱帯」、此書ハ頭上ニ於ル居室學校等ノ及ホスヘキ悪影響ヲ示スモノナリ、著者イーカー氏、一千九百十三年一月三十一日出版
- 第五版、「秩序アル奮闘」、此書ハ正當ナル生活法ノ必要ヲ説ケルモノナリ、著者イーガー氏、一千九百十三年三月十四日出版
- 第十版、「嬰兒ニ就テノ注意」、此書ハ米國嬰兒死亡豫防研究協會ノ一委員ノ手ニ成リ、而シテ一千九百十三年十一月十四日ヨリ同十七日マテ華盛頓府ニ於テ開催サレタル同協會ノ年會ニ提出サレタルモノナリ而シテ同年十二月十九日出版
- 第十四版、「實布埜里亞」、此書ハ其豫防法ト取締法ヲ示セルモノナリ、著者スヘレスチウスキー氏、一千九百十四年四月十七日出版
- 第二十四版、「運動ト健康」、著者スミス氏、一千九百十五年五月七日出版

○フィリッピンニ於ケル癩患者ノ隔離

一九一五年フィリッピン衛生年報所載

一九一五年七月二日ヨリ二十三日ノ間ニ於テ衛生局衛生監督官ドクトル、ノリス氏ハ細菌學者及他ノ醫師ヲ隨伴シ癩患者隔離ノ目的ヲ以テ沿岸巡邏船「バジイラン」ニ乗シ視察旅行ヲ企テ二回ノ旅行ニ於テ十八州ヲ視察シ三百四十人ノ癩患者ヲ集合シ、其大部分ヲ「キューリオン」ニ他ヲ「サンラザロー」病院ニ收容セリ即左表ノ如シ

第一回旅行 キューリオン收容

| 市名州名 | 陽性 | | 陰性 | | 全數 |
|---------------------|------|----|------|----|----|
| | 細菌學的 | 臨床 | 細菌學的 | 臨床 | |
| 一、イバ(ザンパレス) | 一 | 二 | | | 二 |
| 二、サンフェルナンド(ユニオン) | 四 | 二 | | | 四 |
| 三、タグデイン、マウンティンプロビンス | 一 | 三 | | | 三 |
| 四、ビガレ、イロコススール | 二 | 七 | | | 七 |
| 五、アバリ、カガヤン | 一 | 一 | | | 一 |
| 六、レガスピ、アルベイ | 三 | 五 | | | 三 |
| 七、アンボス、カマリネス | 九 | 五 | | | 九 |
| | | | | | 二 |
| | | | | | 四 |
| | | | | | 三 |
| | | | | | 七 |
| | | | | | 一 |
| | | | | | 三 |
| | | | | | 九 |
| | | | | | 二 |
| | | | | | 四 |
| | | | | | 三 |
| | | | | | 七 |
| | | | | | 一 |
| | | | | | 三 |
| | | | | | 九 |
| | | | | | 二 |
| | | | | | 四 |
| | | | | | 三 |
| | | | | | 七 |
| | | | | | 一 |
| | | | | | 三 |
| | | | | | 九 |
| | | | | | 二 |

| | | | | | | |
|-----------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 八、アレン、サマール | 一〇 | 一〇 | 一〇 | 一〇 | 一〇 | 一〇 |
| 九、ソルソゴン、ソルソゴン | 一八 | 一八 | 一八 | 一八 | 一八 | 一八 |
| 一〇、イロイロ、イロイロ | 三〇 | 三〇 | 三〇 | 三〇 | 三〇 | 三〇 |
| 一一、サンジョース、アンテイク | 四 | 四 | 四 | 四 | 四 | 四 |
| 全 數 | 一六三 | 一六三 | 一六三 | 一六三 | 一六三 | 一六三 |

第二回旅行 キュリオオン收容

| | | | | | | |
|---------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 一、タクロバン、ライタ | 七 | 七 | 七 | 七 | 七 | 七 |
| 二、スリガオ、スリガオ | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 | 三 |
| 三、マースイン、ライタ | 一六 | 一六 | 一六 | 一六 | 一六 | 一六 |
| 四、カガヤン、ミサミス | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 | 八 |
| 五、ダマグエト、オリエンタル、ネグロス | 四 | 四 | 四 | 四 | 四 | 四 |
| 六、セビユー、セビユー | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
| 全 數 | 一五一 | 一五一 | 一五一 | 一五一 | 一五一 | 一五六 |

第二回旅行 サンラザロー收容

| | | | | | | |
|---------------|----|----|----|----|----|----|
| 一、ルセナ、タヤバス | 九 | 九 | 九 | 九 | 九 | 九 |
| 二、バタンガス、バタンガス | 六 | 六 | 六 | 六 | 六 | 六 |
| 全 數 | 一五 | 一五 | 一五 | 一五 | 一五 | 一五 |

キュリオオン島及サンラザロー病院收容

計 三四〇

當期間(六月ヨリ十二月)キュリオオン瀕隔離所ニ於ケル患者ノ移動下ノ如シ

- 繰越患者 三、五八五
- 收容患者 四六二
- 逃亡患者 五
- 再收容患者 一九
- 死亡患者 一七〇

當期間(六月ヨリ十二月)患者死亡原因並百分率

- 癩 二六・四七
- 結核 一七・六四
- 六二三

腸炎
マラリヤ
氣管支炎
壊疽
赤痢
心臟病

六二四
九・四一
七・六四
五・八八
五・二七
四・七〇
二・九四

衛生叢書 第七輯終

大正七年三月二十九日印刷
大正七年三月三十一日發行

內務省衛生局

印刷者 西協嘉市
東京市京橋區北橫町九番地

印刷所 一成社印刷所
東京市京橋區北橫町八番地
電話京橋八一三番

#7823

8/

終